

1 目的

現在、障害者職業総合センターでは「精神障害者の等級・疾患と就業状況との関連に関する調査研究」を行っているが、その中で、精神障害者の就業上の配慮や課題を把握するためのアンケート調査を実施することとしている。このアンケート項目作成に役立てるため、2018年に全国のハローワークを対象に行った障害のある求職者の実態調査について、疾患・等級別の状況を分析する。

2 使用したデータ

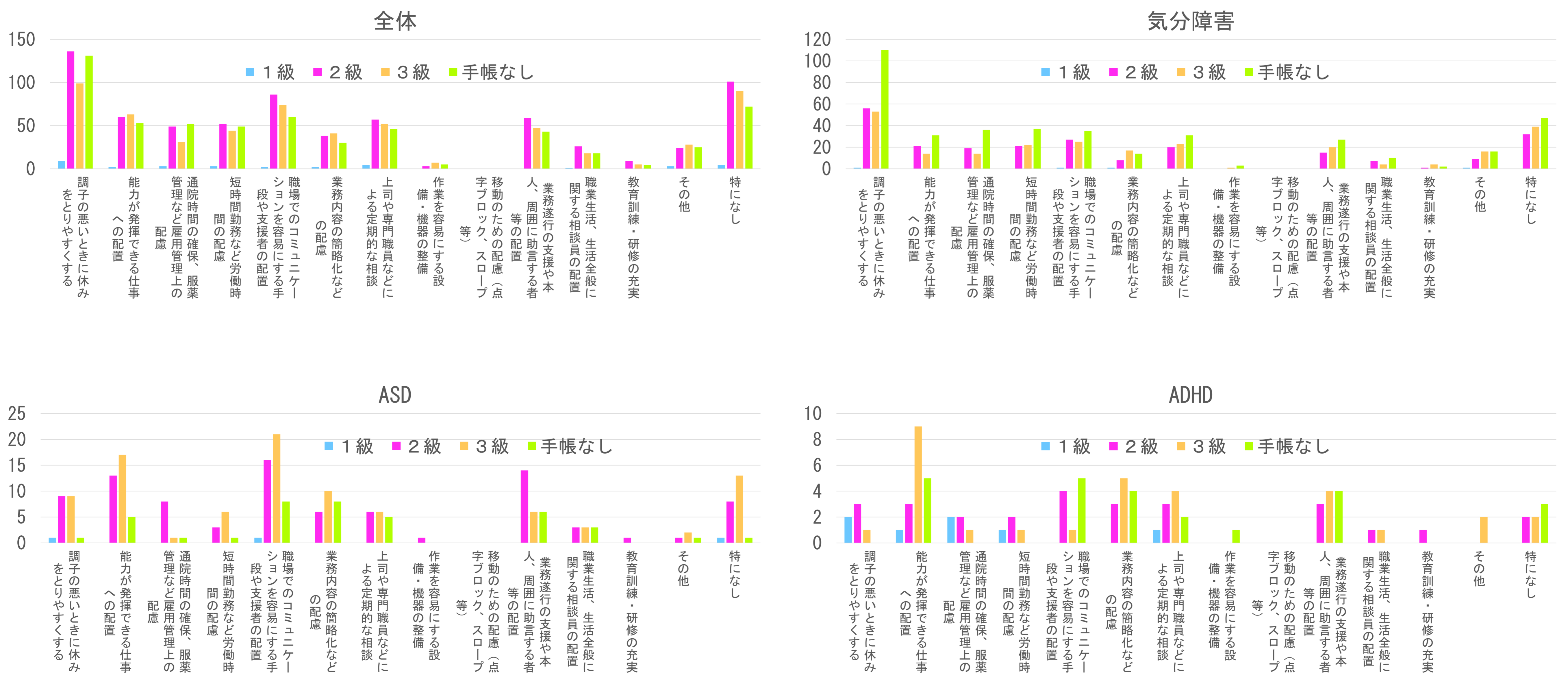
2018年6月に全国のハローワークに精神障害者として新規求職申込のあった者。なお、精神障害と他の障害の重複、精神障害の中での疾患の重複、障害者手帳を申請中の者、手帳等級が不明の者は除外した（n=2,289）。

3 結果

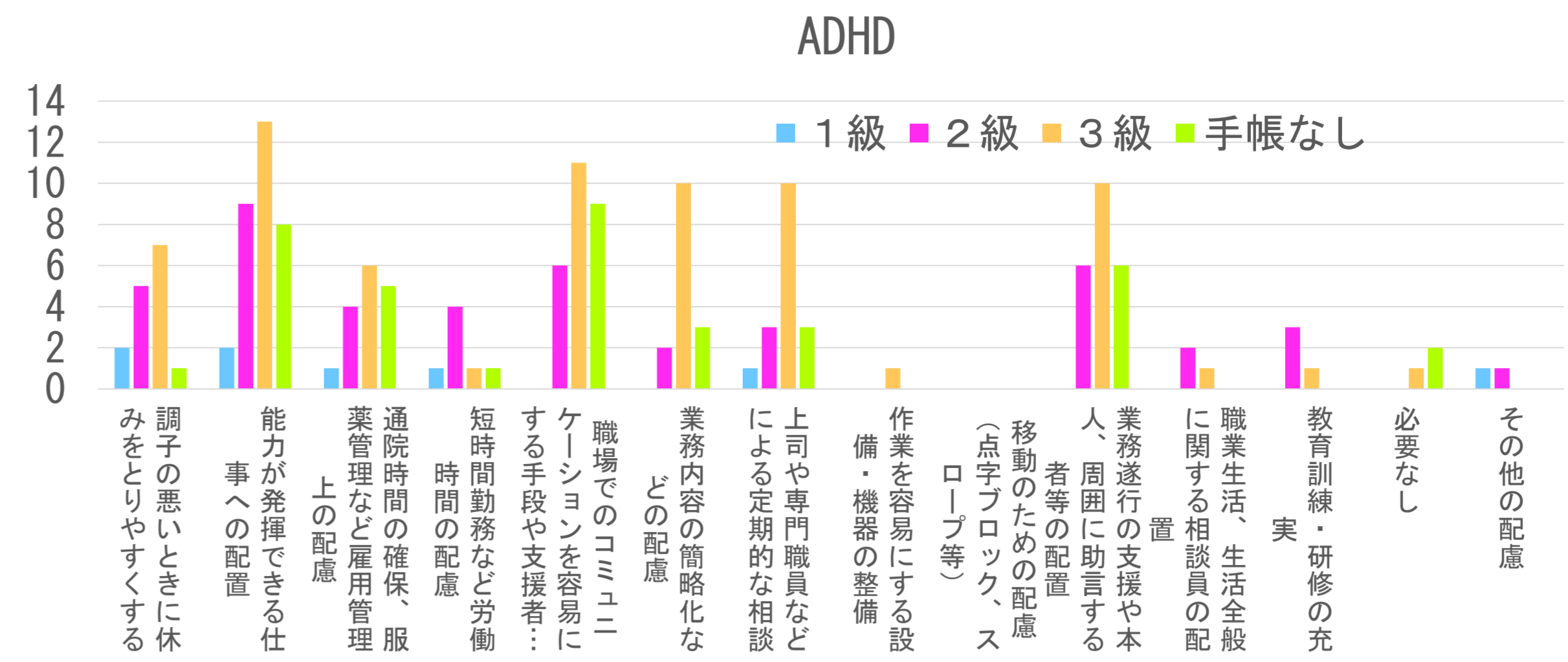
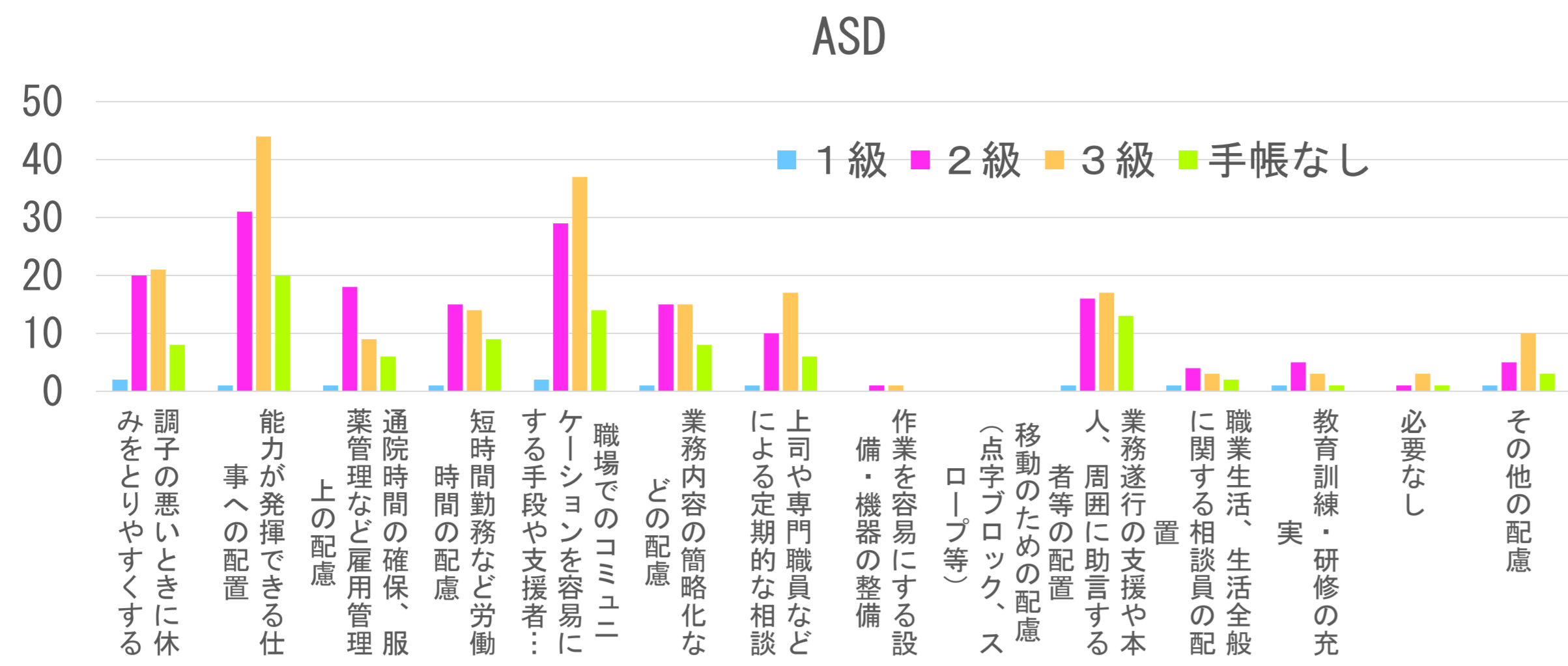
(1) 全般的状況



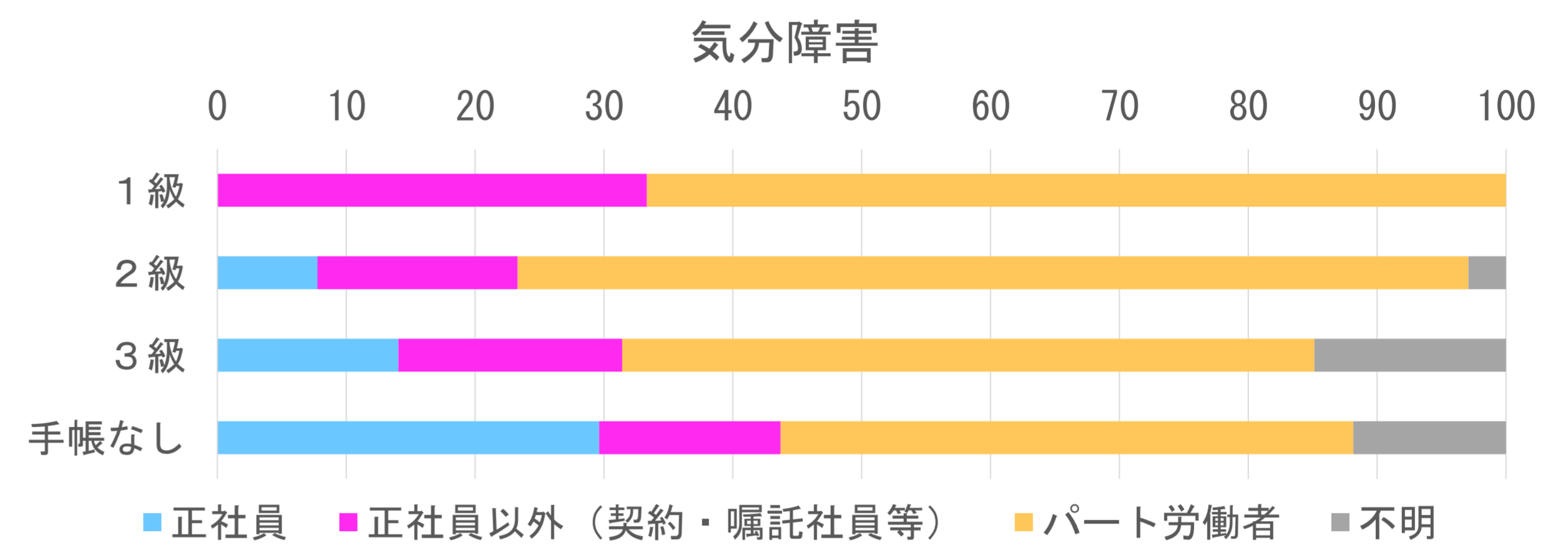
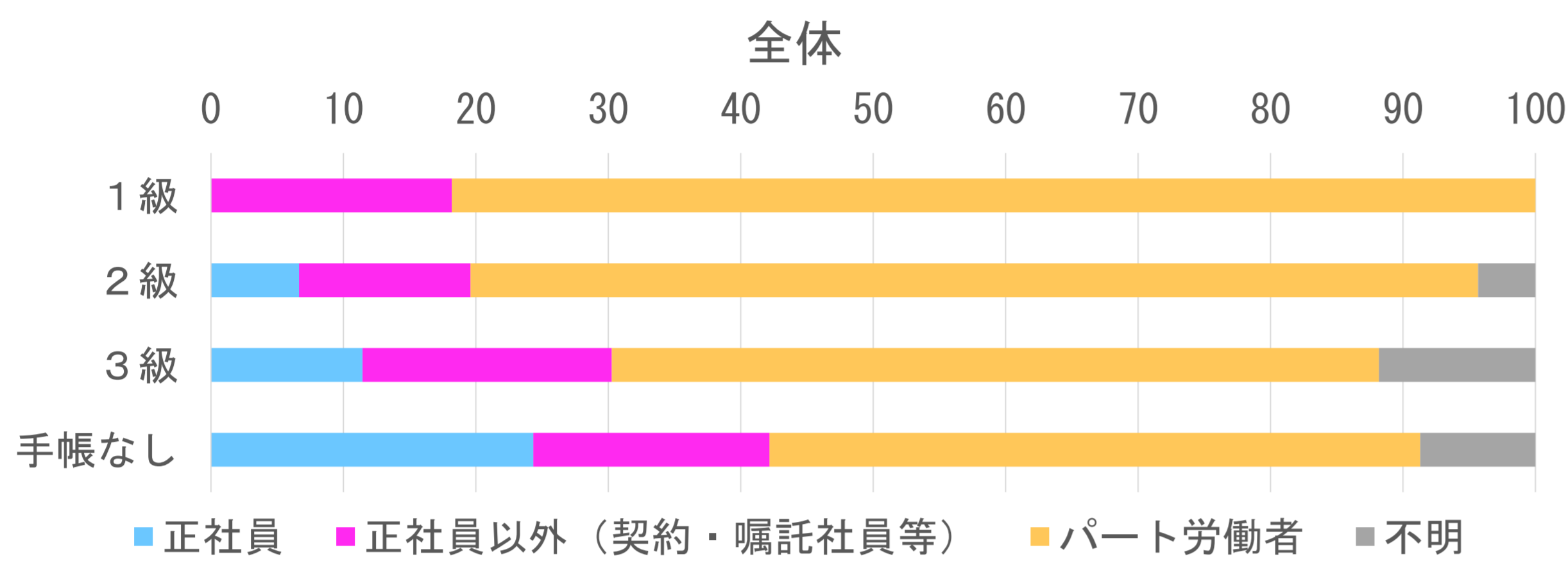
(2) 前職において離職を防止できたと考えられる措置



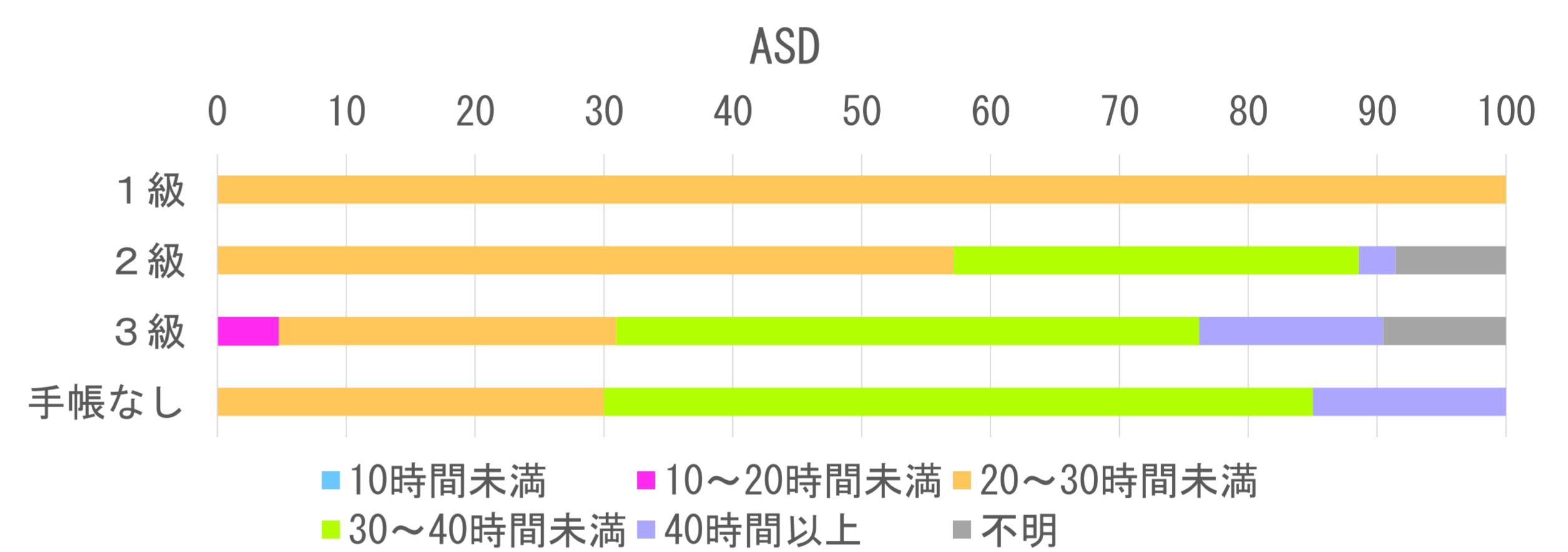
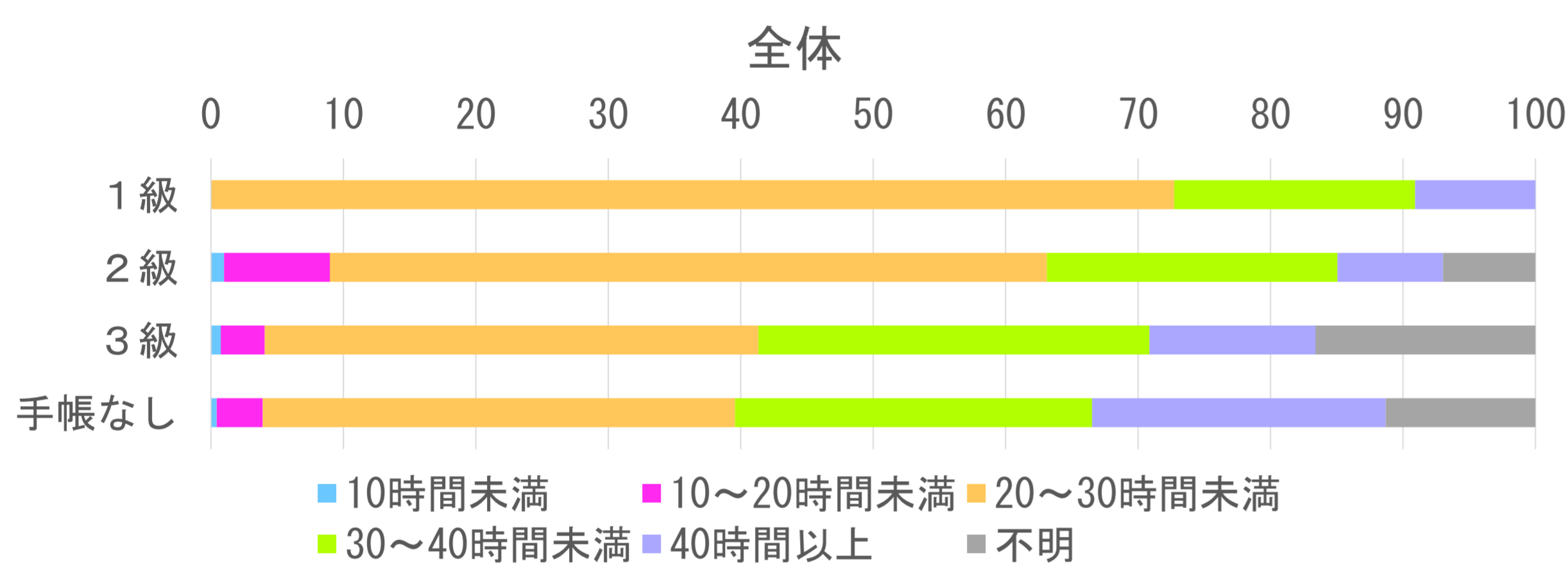
(3) 就職先に希望する必要な配慮



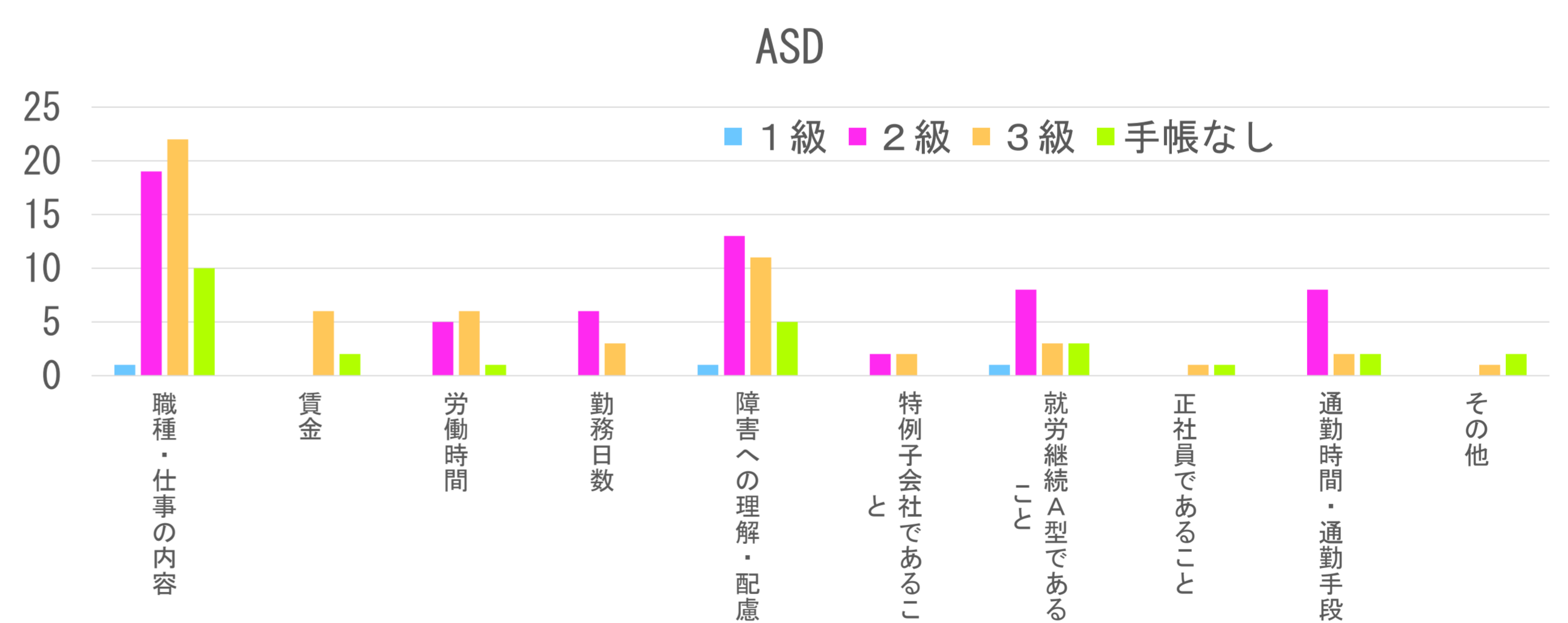
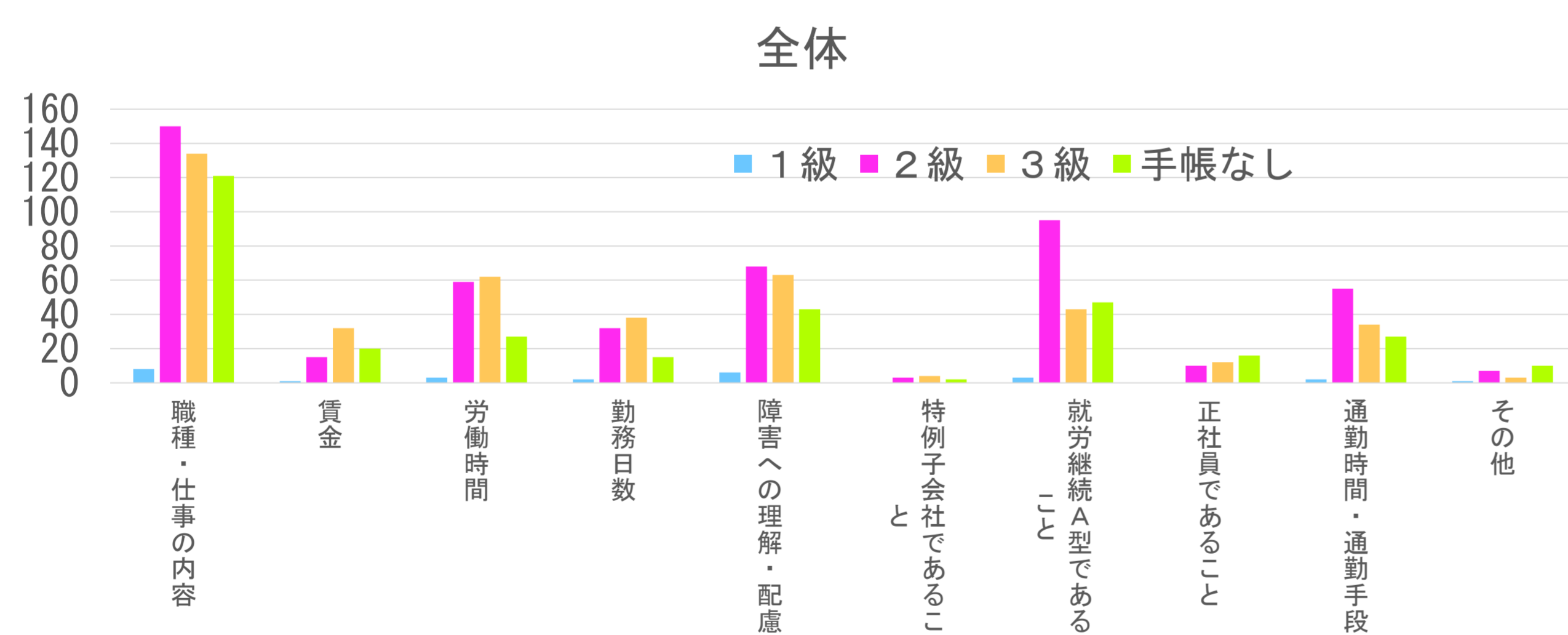
(4) 就職先の雇用形態



(5) 就職先の週所定労働時間



(6) 就職を決めた理由



4 まとめ

前職・希望する職・就職先とも、短時間・非正社員の傾向が見られた。等級が重いほどそのような傾向があった。

疾患別の特徴としては、①「離職を防止できたと考えられる措置」について、ASDで「職場でのコミュニケーション」、ADHDで「能力が発揮できる仕事への配慮」、「上司や専門職員などによる定期的な相談」がやや多く、②「希望する必要な配慮」について、ASD、ADHDで「職場でのコミュニケーション」、「能力が発揮できる仕事への配慮」が多かった。